



# 薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 共有すべき事例

2025年  
No.1  
事例2

疑義照会・処方医への情報提供

## 併用禁忌



### 事例

#### 【事例の詳細】

発熱外来を受診して新型コロナウイルス感染症と診断された患者に、ゾコーバ錠125mgが処方された。薬剤師が患者のお薬手帳を確認したところ、他院の循環器科から複数の薬剤が処方されており、ゾコーバ錠125mgと併用禁忌であるエプレレノン錠50mgを服用していることがわかった。薬剤師が疑義照会を行ったところ、ゾコーバ錠125mgがラゲブリオカプセル200mgに変更となった。

#### 【推定される要因】

発熱外来がひっ迫している状況であり、処方医は患者の併用薬を十分に確認できなかったと推察される。

#### 【薬局での取り組み】

ゾコーバ錠125mgの併用禁忌薬について一覧表を作成し、ゾコーバ錠125mgが処方された際の確認漏れを防ぐ。



### その他の情報

ゾコーバ錠125mgの添付文書 2024年12月 改訂（第18版）（一部抜粋）

10.相互作用

10.1 併用禁忌（併用しないこと）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
エプレレノン（セララ）	エプレレノンの血中濃度上昇により、血清カリウム値の上昇を誘発するおそれがある。	本剤のCYP3Aに対する阻害作用により、これらの薬剤の代謝が阻害される。



### 事例のポイント

- ゾコーバ錠125mgには併用禁忌の薬剤が多数存在する。ゾコーバ錠125mgが処方された際に、併用禁忌を見逃さないために、併用禁忌薬の一覧表や、製薬企業が提供する薬物相互作用検索ツール<sup>\*</sup>などを活用することは有用である。

※薬物相互作用検索ツール「ゾコーバ」 | 塩野義製薬 医療関係者向け情報  
(参照2024年11月13日)

- 発熱外来は通常の診療環境と異なる点が多く、医師の負担は大きい。薬剤師が患者の使用・服用するすべての薬剤を把握し、併用禁忌に該当する薬剤がないか確認することは重要である。
- 本事業の第30回報告書（2024年3月公表）では、「経口新型コロナウイルス感染症治療薬に関する事例」を取り上げ、ゾコーバ錠125mgなどの事例について分析を行った。疑義照会や処方医への情報提供に関する事例では併用禁忌、投与量、用法、病態禁忌に関する事例を分析し、処方監査時に確認すべき事項や主な事例を紹介している。

[経口新型コロナウイルス感染症治療薬に関する事例](#)



公益財団法人 日本医療機能評価機構  
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル  
電話：03-5217-0281（直通） FAX：03-5217-0253（直通）  
<https://www.yakkyoku-hiyari.jcqhcc.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。